

2023年7月7日

関係各位

株式会社パテント・リザルト

【エンジニアリング業】他社牽制力ランキング 2022

トップ 3 は栗田工業、JFEエンジニアリング、オルガノ

弊社はこのほど「エンジニアリング業業界」の特許を対象に、2022年の特許審査過程において他社特許への拒絶理由として引用された特許件数を企業別に集計した「エンジニアリング業業界 他社牽制力ランキング 2022」をまとめました。

この集計により、直近の技術開発において、競合他社が権利化する際に阻害要因となる「先行技術」を多数保有している先進企業が明らかになります。

集計の結果、2022年に最も引用された企業は、1位 栗田工業、2位 JFEエンジニアリング、3位 オルガノとなりました。

【エンジニアリング業業界 他社牽制力ランキング 2022 上位 10 社】

順位	企業名	引用された特許数
1位	栗田工業	331
2位	JFEエンジニアリング	286
3位	オルガノ	140
4位	日立パワーソリューションズ	111
5位	日鉄エンジニアリング	97
6位	東レエンジニアリング	79
7位	東芝プラントシステム	78
8位	水 i n g	77
9位	タクマ	68
10位	神鋼環境ソリューション	67

【ランキングの集計対象について】

日本特許庁に特許出願され、2022年12月までに公開された全特許のうち、2022年1月～12月末の期間に拒絶理由（拒絶理由通知または拒絶査定）として引用された特許を対象に、抽出・集計を行っています。

また本ランキングでは、権利移転を反映した集計を行っています。2023年5月時点で権利を保有している企業の名義でランキングしているため、出願時と企業名が異なる可能性があります。

なお各企業の業種につきましては、総務省の日本標準産業分類等を参考に分類しています。

1位 **栗田工業**の最も引用された特許は「熱交換器の熱源コストを低減することができる超純水製造装置」に関する技術で、三浦工業やオルガノなどの計3件の審査過程で引用されています。このほかには「低コストでホウ素濃度を基準値以下とすることができるホウ素含有水の処理方法」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、住友金属鉱山などの計2件の拒絶理由として引用されています。

2022年に、栗田工業の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業はオルガノ(39件)、次いで野村マイクロ・サイエンス、水 ing(いずれも11件)となっています。

2位 **JFEエンジニアリング**の最も引用された特許は「誘導型歩行補助システム」に関する技術で、トヨタ自動車などの計4件の審査過程で引用されています。このほか「急速充電装置」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、古河電気工業などの計4件の拒絶理由として引用されています。

2022年に、JFEエンジニアリングの特許によって影響を受けた件数が最も多い企業はJFEスチール(14件)、次いで日本製鉄(11件)です。

3位 **オルガノ**の最も引用された特許は「逆浸透膜処理方法および逆浸透膜処理システム」に関する技術で、三浦工業の「水処理システム」関連特許など計2件の審査過程において拒絶理由として引用されています。

2022年に、オルガノの特許により影響を受けた件数が最も多い企業は栗田工業(25件)、次いで野村マイクロ・サイエンス(8件)となっています。

4位 **日立パワーソリューションズ**は「異常予兆検知システム及び異常予兆検知方法」、5位 **日鉄エンジニアリング**は「制振鉄骨構造物」が、最も引用された特許として挙げられます。

* * *

また弊社では、ランキングデータを下記の通り販売しています。

【エンジニアリング業業界 他社牽制力ランキング 2022 データ】

▶納品形態：以下のデータを収録したエクセルファイルをメールで御納品※

(※データー式を収録したCD-Rでの御納品をご希望の場合はご相談ください)

- ・ランキング トップ30社：本業界の被引用件数上位30社のランキング
- ・被引用件数 トップ100件：本業界の被引用件数上位100特許、及び引用先の特許との対応

▶価格：50,000円(税抜)

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社パテント・リザルト 事業本部 営業グループ

URL : <https://www.patentresult.co.jp/>

e-mail : info@patentresult.co.jp